

## 葉タバコのカルテック栽培

(10アール当り)

時期	方法	資材
残幹処理	残幹による地力作り	収穫後の残幹は (なるべく粉砕して) 畑にスキ込みます。 このとき <b>ラクトバチルス</b> 600 g を、米ヌカ 30 kg に混ぜて (または硫酸 10 kg に混ぜて)、撒いてから耕してください。 ※もし持ち出して堆肥を作る場合にも、 <b>ラクトバチルス</b> を加えて醗酵させます。
地力作り	秋のうちに堆肥を入れて、耕起  (上記、残幹処理と同時か、近接するのが理想的)	<b>ラクトバチルス</b> 600 g … 有機物を醗酵させ、排水よく、深い土壌を作る <b>堆厩肥</b> 1 トン以上 (なるべく多く) <b>硫酸</b> 20 kg～60 kg ※堆厩肥の土中醗酵だけを目的とする場合は、 <b>硫酸 20 kg</b> 程度。 肥料的な働きを含めて地力作りをするなら、 <b>硫酸 60 kg</b> 。 (畑の地力・前年の出来によってチッソ量を調節します) ※土壌 pH が酸性 (5.5 以下) の場合は、 <b>畑のカルシウム 60 kg</b> を同時に投入します。 ※堆厩肥が不十分、または痩せ地の場合は、NPK 成分の複合肥料、または硫酸カリ (40 kg) などを投入しておきます。
整地時	整地・ウネ作り時に散布 [元肥]  (3種・同時に)	<b>硫酸</b> 40 kg または 有機肥料 (N : 10 kg) ※もし秋の地力作りで投入されていない場合は、 <b>ラクトバチルス</b> 600 g を混合します。 ※堆厩肥による地力作りが充分なら、硫酸をお勧めします。 <b>畑のカルシウム</b> (または <b>カルテック Ca 粒状</b> ) 60 kg ※土壌 pH によって、どちらかを、ウネ上に散布またはスジ撒き。
育苗	散水時に使用	<b>濃縮酵素液</b> 1000倍 … 根を強くし、生長を促進 <b>カルテック Ca 液状</b> 1000倍 … 葉を厚くし、充実させる 発芽後 15 日頃 (親床から子床へ植えかえ時) 以降、5 日間隔で交互に、葉の上から散布します。 定植 (移植) 10 日前から 2 回、 <b>Ca 液</b> を散布して 苗をしめます。
定植時	定植 (移植) 時灌水	<b>濃縮酵素液</b> 500 倍液 … 初期の根張り促進、病害軽減
生育中	葉面散布  (できれば灌水)  ※生育状態を見て、適宜コントロールします	<b>濃縮酵素液</b> 500 倍液を葉面散布 (根・生長の促進) ※移植後 1 ヶ月間は、根張り と 健全な展葉・生長のために、酵素液を、半月間隔で 2 回散布すると、立枯れ・疫病にも強くなる。 ※土寄せする場合は その時に酵素液を葉面散布 (または灌水) <b>メガデルトン・ネオスリー</b> 800 倍で葉面散布 (N などの成分補給) ※移植後 1 ヶ月～2 ヶ月に、葉が展開するためにチッソ等の成分が必要になります。通常は元肥で充分ですが、もし肥切れのおそれがある場合 (葉中 N = 3.5% 以下) は、葉面散布します。 <b>カルテック Ca 液状</b> 500 倍 (葉の成熟) 10 日間隔 2 回 ※移植後 2 ヶ月、花房を芯止め (摘心) し、MH (腋芽抑制剤) 散布したら、 <b>Ca 液</b> の葉面散布で チッソ抑制、葉の厚みを増し、成熟を促進。上葉・天葉まで色抜けよく、若返りしません。